

編集委員異動（平成十七年度）

平成十七年十一月三十日付で美術部日本東洋美術研究室長鈴木廣之は東京学芸大学芸術スポーツ科学系教授に転出した。

平成十七年十二月十四日付で、国際文化財保存修復協力センター保存計画研究室長岡田健は編集委員を辞した。

平成十八年一月一日付で江村知子は情報調整室研究員に採用され、着任した。

平成十八年一月一日付で美術部長中野照男は広領域研究室長事務取扱を解かれ、日本東洋美術研究室長事務取扱を命じられた。

平成十八年一月一日付で美術部主任研究官津田徹英は広領域研究室長に昇任した。

平成十八年一月一日付で情報調整室研究員綿田稔は美術部広領域研究室研究員に配置換えとなった。

美術部報（平成十七年度）

美術部オープンレクチャー

第三十九回美術部オープンレクチャー「日本における外来美術の受容について」を研究所セミナー室において左記のとおり開催した。

十一月四日（金）午後一時三十分～四時

中世における中国道教神の受容をめぐる

韓国と日本の女神像の初期図像

十一月五日（土）午後一時三十分～四時

川端玉章について―岡山派の近代―

藤島武二の〈東洋〉

武蔵野美術大学 朴亨 國

実践女子大学 塩谷 純

実践女子大学 児島 薫

『日本美術年鑑』の刊行

美術部編集による『日本美術年鑑』平成十六年度版（平成十五年一月～十二月の記事）は平成十七年三月に刊行された。

編集委員異動・美術部報

黒田清輝巡回展

昭和五十二年以来、毎年開催してきた黒田清輝巡回展（近代日本洋画の巨匠 黒田清輝展）を、平成十七年七月十六日（土）から九月四日（日）まで、徳島県立近代美術館で開催した。

研究会

四月二十七日 最近の西域壁画の調査から

―顔料分析と蛍光撮影を中心に― 中野照男

五月二十五日 在外研究報告―菊池容斎《観音経絵巻》と

狩野勝川院雅信《龍田図屏風》について 塩谷 純

六月二十九日 後期印象派・考

―人見東明のネットワークと受容されたイメージ―田中 淳

七月二十六日 帝国大学のパブリックアート

―青山熊治「九州大学工学部壁画」―九州大学 後小路雅弘

八月十日 彫刻史における資料学の構築に向けて

情報調整室 皿井 舞

九月七日 物質への関心―一九一〇年代半ばから一九二〇年代

にかけての日本油彩画における― 小林未央子

九月二十九日 仏像の荘厳―白毫相を中心に― 情報調整室 皿井 舞

ミニ・シンポジウム 東アジア近代絵画における東洋と西洋

受容の往還―一九一〇～二〇年代、日本絵画界における

東洋的傾向について― 情報調整室 山梨絵美子

韓国美術における近代

―模範とすべきあるいは超克すべきモデルとしての西洋―

ソウル国立大学校 金 英 那

モダンティ―と伝統―嘉義出身の三人の日本画家の物語―

中央研究員歴史語言研究所・国立台湾大学芸術研究所 顔 娟 英

司会 鈴木廣之

十一月三十日 フェノロサ書評

―ルイ・ゴンス『日本美術』一八八三

鈴木廣之

十二月十四日 裸体の居場所―一九二〇―四〇年代の裸体表現―

東京国立近代美術館 蔵屋美香

一月八日 雪舟筆「破墨山水図」はどう読めるか

綿田 稔

雪舟筆「破墨山水図」と宗淵

成城大学 相澤正彦

二月十五日 ベンガル派における日本絵画の受容について

―大観・春草との交流とウォツシュ・テクニツクの試み―

横山大観記念館 佐藤志及

美術ナショナリズムの対話―二〇世紀初頭ベンガルの近代美術
における日本との結びつき― (Dialogues in Artistic Nationalisms:

The Engagement with Japan in the Modern Art of Early 20th Century

Bengal)

カルカッタ社会科学センター トポテイ・グーハリタクルタ

(東京大学東洋文化研究所との共催)

三月二十九日

安西楡林窟における金剛童子の図像について

勝木言一郎